

地域で共に考えるトマト黄化葉巻病対策

県西農林事務所 経営・普及部門（筑西地域農業改良普及センター）

筑西地域は全国有数のこだまスイカ産地ですが、その後作として抑制トマトの栽培も盛んであり、一大産地を築いています。しかし、平成23年にトマト黄化葉巻病が大発生し、それ以降も大きな問題となっています。本病はタバココナジラミが媒介する防除が非常に難しいウイルス病ですが、地域全体で足並みを揃えた総合的な対策が図られたことで被害は減少し、生産量も回復してきています。

黄化葉巻病の特徴と対策の周知

本病を引き起こすウイルスや媒介虫のタバココナジラミに関する正しい知識と防除方法を周知するため、関係機関と連携して学習会を開催し、約200名の生産者が参加しました。

また、ウイルスの伝染源を絶つためには家庭菜園トマトでの発病株の抜き取りも重要であるため、一般市民向けのチラシを作成し、各市の協力により管内全戸に配布（約6万枚）しました。



トマト黄化葉巻病学習会



育苗モデルハウス（左）、耐病性品種現地研修会（右）

総合的な防除体系の確立

タバココナジラミは薬剤抵抗性が発達し、薬剤のみの防除が難しいことから、あらゆる防除手段を組み合わせた総合防除の取り組みを進めました。

粒剤の育苗期処理、育苗ハウスでの0.4mm ネットやUVカットフィルムの展張による侵入防止、本ぼでの黄色粘着資材による捕殺、産地に適応した耐病性品種の選定などに取り組んでいます。

地域全体での情報の共有

市、JA、県西共済組合、地元の種苗資材小売店などで構成する「こだまスイカ産地活性化連絡協議会」を活用し、本病の発生状況や防除対策、耐病性品種の特性などの情報交換を行うとともに、全生産者への情報提供を図っています。

また、JA北つくばでは生産者40名が自らタバココナジラミの発生予察に取り組み、取りまとめたデータを全部会員に情報提供しています。



情報交換会議（左）、予察情報の提供（右）